

地震が私に教えてくれたこと

倉吉市明倫小学校

六年 尾崎南美

「机の下にもぐれ。」

教頭先生の叫ぶ声が聞こえた。みんなの悲鳴や、ガラスが割れる音も聞こえてくる。平成二十八年十月二十一日金曜日午後二時七分ごろ、鳥取県中部を震源とする、マグニチュード六・六、震度六弱の地震が私達の学校をおそった。

その時私達六年生は、そうじ時間が終わり「あおぞらタイム」の時間を過ごしていた。教室で短歌作りをしていたその時に、突然ドドドッという地響きが起き、大きくぐらぐら揺れだした。私は何も考えられないまま必死に机の下にもぐりこんだ。机の下にもぐってからも、教室はずっと大きく揺れている。私にとって初めての大きな地震だった。すごく長く揺れていたため、東日本大震災のようになるのかと思ったが、そんなことを考えるよりも、ただ、こわいという気持ちですごく大きくなっていった。その後、教頭先生の指示に従って校庭へと避難した。その後も余震がたくさんきた。揺れに不安を感じた

いようだった。次の日には、パンと牛乳とおにぎりが配られた。地震が起きる前の私だったら、おにぎり一つぐらい配られたって何とも思わなかっただろう。けれど今は、おにぎりたった一つがとても貴重なものと思えた。だから、このおにぎりを提供して下さった方にはすごく感謝している。でも、世界中にはパンも牛乳も何も食べるものがなくて苦しんでいる人もたくさんいると聞いたことがある。すごく高級なものをたくさんいっても食べられていない人もいると聞いたこともある。私達は、そんなに高級なものを食べることはできないけれど、何も食べられない人達に比べると、恵まれているのかなと思う。では、何も食べることができない人達のために、私たちが何ができるか考えてみた。それは、できるだけ食べ物を残さないこと、どんな食べ物も無駄にしないこと、食べ物を食べることで感謝すること、この三つだと私は思う。さっそく今日からこのことを実践していこうと思った。

二つ目は、何が起きてもパニックにならずに、冷静に考えることだ。今回の大きな地震が起きた時、ほとんどの人が机にもぐりこんでいた。それは、避難訓練をしていたおかげだと思ふ。もしもここでパニックになり、机にもぐることを考えることができなかったら、落ちて

がら家族の迎えを待ち、おじいちゃんが迎えに来てくれた時は、会えてよかったと安心した。しかし、他の家族は無事なのかと、同時に不安な気持ちにもなった。

地震があった日の夜は、お母さんは松江に出張だった。お父さんは中学校教師なので、早く家に帰ることができなかった。だから、おばあちゃんとおじいちゃんと弟とで、車に乗って二人の帰りを待った。家の中で待つことがこわくてできなかったのだ。車の中でテレビをつけて見ていると、ほとんどのニュース番組がこの地震についての報道をしていた。そのことが私にはとても信じられなかった。鳥取県は地震活動が少ないといわれていたので、東日本大震災や熊本地震が起きた時も、鳥取県はこんなことにはならないだろうと、少なからず私は思っていた。しかし、現実とは違っていた。やっぱり自然災害はわからないものだ、そしておそろしいものだと思います。特に地震は、いつ起こるのかという前兆がないのですごくこわいものだと思ふ。

でも私自身、このおそろしい地震から学んだことは四つあった。

一つ目は、食べ物のありがたさだ。今回の地震で給食センターが壊れてしまい、給食はパンと牛乳だけの日が続いた。みんながあまりお腹いっぱいにならず物足りなきた物やガラスが頭に当たって、けがをしていたのかもしれない。地震に限らず、大きな災害などがあつた時には、自分の命や身をどうしたら守ることができなのか、次にどんな行動をとればいいのかを冷静に考えることが大事だと改めて思うことができた。

三つ目は、普通の日常の中にこそ幸せがあるのだということだ。地震の揺れによって、校舎の屋上にある貯水タンクが壊れてしまい、現在は校舎内の水を自由に使うことができていない。トイレの水を流すことができないので、仮設トイレを使わないといけない。体育館が避難所になっているので、体育館で遊ぶことができない。校庭の三分の二は私達の避難場所や、避難しておられる方々の駐車場として確保しており、残りの三分の一でしか遊ぶことができない。長休けいは、車の出入りが多いので教室で過ごすことができない。いつもの給食を食べることができない。家に帰ったら外に出て友達と遊ぶことができない。いつ余震が来るのかと毎日を不安になりながら過ごすことができない。など、いろいろと今までの日常と比べて、不便に感じることが多い。今まで普通だなと思ひながら、あるいは思ひもせずに過ごしていたことが、今になってみてとても幸せだと思えてくる。当たり前前だと思っていたことが、急にできなくなると、今

まで自分は幸せな毎日を送っていたんだと気づかせてくれる。これから時間がたつて前のような日常に戻ったときも、今回のことを思い出して、今自分は幸せに生活できているのだなと思わないといけないと感じた。

四つ目は、前向きに考えるということだ。鳥取県中部地震で多くの家が壊れたり、物が壊れたりした。倉吉市の観光スポットである白壁土蔵群も、壁がはがれ落ち、無残な姿になっていた。八幡町にある八幡神社は、鳥居が倒れ、すっかり元の姿と変わってしまった。小中学校もいろんな所にひびが入ったり、校庭が地割れしたり、物が壊れたりした。明倫小学校のすぐ近くにあるしゅう油工場ヒシクラでは、壁がはがれたり、機械が壊れたりすごく大きな被害がでた。今、鳥取県では、多くの人がとても悲しんでいる。でも他の県などからブルーシートを分けてもらったり、食料を無料で提供してもらったりしている。近くの県からは、少しでも被災者の力になるとうとボランティアに来て下さる方々がいる。このように、いろいろな人達が私達のことを支えて下さっている。悲しんでばかりいられないので、早く今までのすてきな鳥取県に、そして倉吉市に戻ろうと、前向きに考えることが大切だと私は思った。

このように地震は、私達にとって大きな不安、悲しみ、



平成28年10月21日14時7分
鳥取県中部地震 震度6弱
倉吉市街地の状況

考え方などいろいろなことを教えてくれた。災害はいつ起こるか分からない。だから、いつ起きてもいいように準備をしておかなければならない。たとえ、どんなに最悪な事態になったとしても、復興するための希望の光はきっとある。だから誰もが少しずつ自分にできることを見つけて、みんなで協力し合い、助け合っことができれば、いつものように戻るはずである。だから希望を捨てずに、私達は頑張っていきたいと思う。

今もずっと余震が続いている。もしかしたら、また大きな地震がくるかもしれない。でもその時には、今回学んだことが生かされるだろう。そして、パニックにならずに冷静に考えられる力を使いたいと思う。いつもの給食に戻ったら、食べ物のありがたみを感じながら食べたいと思う。普通の生活が送れることに幸せを感じながら生きていきたいと思う。そして、何事も前向きに考え前進していきたい。地震から学んだ四つのことは、これからの人生の中で忘れずに過こしていきたいと思う。鳥取県中部地震、これは私にとって大切なことを教えてくれるものだった。私は、この経験をずっと忘れることはないだろう。